

「希少野生動植物種保護支援員研修会（第3回）」

- ☆ 日時：平成22年11月13日（土） 9：30～15：10
- ☆ 場所：秋吉台エコ・ミュージアム レクチャールーム 他
- ☆ 参加者：19人

1 スケジュール

9：30～ 9：32	開会行事
9：32～10：00	講義「地球のいのち、つないでいこう」
10：00～10：10	休憩
10：10～10：50	本郷小学校児童による発表
10：50～11：00	休憩
11：00～12：00	ゲゲゲのエコ森池のいきもの
12：00～13：00	昼食
13：00～15：00	講義と野外観察「コケの観察」
15：10	閉会（アンケート回収）

2 活動内容

山口県自然保護課から生物多様性についての講義、本郷小学校児童による秋吉台こどもガイドの実演、昨年、一般参加者と造成した池の経緯と現状について講義を受けました。

午後からは、コケについての講義後大正洞周辺に生えているコケの観察を実施しました。

◇ 講義

（地球のいのち、つないでいこう）

県自然保護課 内田主任

地球上には3,000万種ともいわれる多様な生きものがいると言われているが、今、たくさんの種類の生きものが絶滅している。地球上の生きものは様々な形でつながりあい支えあっており、種が絶滅することは地球上の生きものである人間にも影響がでる可能性がある。

絶滅の原因は人間生活に起因するもので、3つの危機+地球温暖化と言われている。第1は開発による生息地の減少や分断、希少種の乱獲・盗掘など。第2は自然に対する働きかけが減ったことによる里山の荒廃や耕作放棄による水田の減少などによる生息地の減少。第3は外来生物や農薬などによる生態系の攪乱。ブラックバスを放したためにフナなどの在来種が激減したこと、京都のお寺でアライグマが貴重な襖絵を破ったことなどご存じの方も多と思う。外来種は、生命力、繁殖力が強いので、日本古来の種を駆逐してしまう。飼えなくなった、でも処分するのはかわいそうと野に放すと、生態系を変えてしまうので絶対にしてはいけない。地球温暖化の影響はみなさんもご存じの通りで、気温が数度変わるだけで生息できない生きものがたくさんいる。

今年、東部地域では、エサ不足のためかツキノワグマが例年になく多数人里に出没している。ツキノワグマは山口県レッドデータブックⅠA類に分類されている希少な生きものなので、わなにかかった場合は、二度と人里に出てこないよう、耳標をつけ唐辛子スプレ



一をかけて奥山に放獣してきた。しかし、今年は出没数があまりに多く同じ地域に何度も出ると、住民の不安も大きく殺処分せざるを得なくなっている。

生物多様性を守り、多様な生きものと共生するために何が出来るのか、どうしたらいいのかを考えていただきたい。難しいことではない。身近な自然を日々観察するだけでいろいろなことが見えてくる。支援員のみなさんにはぜひそこから始めていただきたい。

(本郷小学校による発表)

美祢市立本郷小学校児童・岩本政彦教諭

「ふるさと子どもガイド」の実践のねらい、学習内容、成果と課題について担当の岩本教諭から説明を受けました。「ガイドでは、子ども達が体験したことや考えたことを原稿にし、説明に役立つパネルを製作し利用する。ガイドは秋吉台を訪れた観光客に行っている。調べ学習や体験学習は、秋吉台、秋芳洞の地質・化石・動植物の学習、草原学習（草原の再生と役割、草刈体験）、洞窟清掃等を実施している。」

児童4人からは、「コウモリの子育てについて」「コウモリの秘密」「秋芳洞に暮らす昆虫」「ドリーネの種類と利用について」をガイドしてもらいました。ガイドの中には、質問形式のものもあり、支援員も質問に答えていました。



(ゲゲゲのエコ森池のいきもの)

秋吉台に生息するヤマアカガエルやモリアオガエルは、繁殖に必要な水がある場所としてドリーネの水が溜まる場所や防火用水のドラム缶を利用していることがあります。秋吉台は石灰岩台地のため、透水性が良く、地下水系が発達しています。そのため地表に恒常的に滞水する場所は限られています。エコ・ミュージアム近辺に生息している、ニホンヒキガエルやモリアオガエル等の繁殖する場所を確保するために産卵池づくりを実施しました。その池の名前がゲゲゲのエコ森池。

池を造成し、産卵場所としては相応しくない所に産卵された卵塊を救出して池に移す、またその活動に参加した子ども達に里親になってもらいカエルになる頃に池に放してもらいました。8月21日時点で推定オタマジャクシ個体数1643匹だったと話されました。

実際に池を観察し、講師の指示で、参加者は落葉を幾枚か拾い研修室に戻りました。その葉を利用し、「ペテルセン法」という個体数推定の仕方を学びました。

秋吉台エコ倶楽部 田原 義寛



(コケの観察会)

野外観察の前にコケの学習をしました。コケは、日本には約1800種、山口県内に670種+20種程度（未確認）存在しているのではないかとされています。講座では、コケ植物の特徴、コケ植物の形態・分類と生態、蘚類・苔類・ツノゴケ類の特徴、変ったコケ、コケと環境、そして大正洞で見られるコケ植物について学びました。

(資料参考)

周南市立翔北中学校教頭 林 正典



野外観察では、エコ・ミュージアムから大正洞の入口付近までのコケを観察しました。大正洞付近では、石灰岩面に南方系のセイナンヒラゴケやスギの幹に北方系のヨツバゴケを見ることができました。その他に、クジャクゴケ、ネズミノオゴケ等を観察しました。

コケ植物観察方法は、実体顕微鏡下でピンセットを使って解剖して、葉の形や細胞の様子等は光学顕微鏡で見ます。希望者は、研修終了後に光学顕微鏡でコケの観察を実施しました。